

研究主題「社会的事象を多面的にとらえ、考える力を育成する個に応じた 学習指導の工夫 - 発展的な学習・補足的な学習の指導を通して - 」

東京都教職員研修センター 研修部 授業力向上課
武蔵村山市立第一小学校 教諭 宮内 潤

I 研究のねらい

平成 10 年 7 月の教育課程審議会の答申では、小学校社会科の改善の基本方針として「児童が社会的事象に関心をもって進んでかかわり、それらの意味や働きを多面的に考えるとともに、児童の発達段階を考慮して、社会的事象を公正に考えたり判断したりできるようにすること」が一層求められた。また、平成 15 年 12 月の学習指導要領の一部改正では、個に応じた指導の充実のための指導方法等の例示として「学習内容の習熟の程度に応じた指導、補足的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れた指導等」が加えられた。

国立教育政策研究所「平成 15 年度公立小・中学校における教育課程の編成・実施状況調査」では、個に応じた指導は小学校全体の 86.5% で実施されており、特に、児童の学習内容の習熟の程度に応じた指導方法等として例示された「発展的な学習・補足的な学習の指導」の実施状況は、小学校全体の 32.2% であった。

これらのことから、児童の発達段階を考慮して、社会的事象を公正に考えたり判断したりできるようにするための個に応じた学習指導方法の工夫・改善に課題があるととらえた。

そこで、児童の発達段階を考慮して、社会的事象を公正に考えたり判断したりできるようにするために「社会的事象を多面的にとらえ、考える力を育成するための個に応じた学習指導の工夫」を明確にしていくことをねらいとした。

II 研究の内容と方法



研究 仮説	小学校社会科学習において、一人一人の児童の実態に応じて、発展的な学習と補足的な学習を取り入れた個に応じた指導の充実を図ることにより、児童の社会的事象を多面的にとらえ、考える力を伸ばすことができるであろう。
----------	--

1 基礎研究

(1) 個に応じた指導の工夫の充実

文部科学省は「確かな学力の向上のための 2002 アピール(学びのすすめ)」(平成 14 年 1 月)で「学習指導要領は最低基準であり、理解の進んでいる子どもは、発展的な学習で力をより伸ばす」ことを示した。また、中央教育審議会答申「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」を受け、学習指導要領が一部改正され、各学校においては発展的・補足的な学習など、個に応じた指導のより一層の充実を図ることが求められた。

(2) 社会的事象を多面的にとらえ、考える力とその育成

小学校学習指導要領解説社会編には、第 6 学年の能力に関する目標として「社会的事象の意味をより広い視野から考える力を育成すること」が示されている。この目標を実現するためには、「児童の発達段階を考慮して、社会的事象を多面的、総合的にとらえ公正に判断することができるよう配慮することが大切である」と示されている。本研究では、「社会的事象を多面的、総合的にとらえ公正に判断すること」を「社会的事象を多面的にとらえ、考える力」としてと

らえた。そして、児童の学習の進度、理解や習熟の状況に応じた指導を通して、社会的事象の意味や働きを「より多くの事項からとらえ、考える力」と社会的事象の意味を「複数の事例からとらえ、総合的に考える力」の育成を図ることができると考えた。

(3) 発展的な学習と補足的な学習の意義

「個に応じた指導に関する指導資料」(平成14年8月)では、発展的な学習は「学習指導要領に示す内容を身に付けている子どもに対して、学習指導要領に示す内容の理解をより深める学習を行ったり、更に進んだ内容についての学習を行ったりするなどの学習指導」と示され、補足的な学習は「子どもの理解や習熟に応じて、学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容を行う学習指導」と示されている。そこで、一人一人の児童の学習の進度、理解や習熟の状況に応じて発展的な学習・補足的な学習の指導を取り入れることで、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、個に応じた指導の一層の充実につながるととらえた。

(4) 学習指導計画の作成及び教材開発の基本的な考え方

学習指導計画の作成にあたって、児童の学習の進度、理解や習熟の状況に応じて発展的な学習と補足的な学習の指導を取り入れた個に応じた指導の充実を図ることで、「社会的事象を多面的にとらえ、考える力」の育成を図ることができるととらえた。そのために、ヒントカードで自己の学習の進度、理解や習熟の状況に応じて学習の手順や方法を確認させたり、学習シートを選択させたりすることで自己評価できるように工夫した。

2 実践研究

(1) 学習指導計画の作成

学習指導計画の作成にあたっては、発展的な学習・補足的な学習の指導を「調べる学習過程」と「深める学習過程」に1時間ずつ習熟度別学習として位置付けた。

「調べる学習過程」の発展的な学習の指導は、社会的事象の意味や働きを総合的に考える力を育成するために「社会的事象を複数の事例からとらえ、考える」学習として位置付けた。そして、「深める学習過程」の発展的な学習の指導は、社会的事象の意味や働きをより広い視野から考える力を育成するための「社会的事象をより多くの事項からとらえ、考える」学習として位置付けた。また、補足的な学習の指導は、「調べる学習過程」「深める学習過程」のそれぞれに社会的事象の意味や働きを考える力を確実に定着させるための「社会的事象を複数の事項からとらえ、考える」学習として位置付けた。

(2) 教材開発

ヒントカード

児童が発展的な学習・補足的な学習に取り組むための手順や方法を示し、学習進度や理解や習熟の状況に応じて活用できるように工夫した。

選択学習シート

児童が学習の手順や方法を確認できる学習シートと、調べたり考えたりしたことを自由に構成して、表現することができる学習シートを学習状況に応じて選択できるようにした。

(3) 座席表形式の評価シート

前單元までの観点別評価と本單元で伸ばしたい力を座席表形式の評価シートとして整理し、個に応じた指導を行うために活用できるものとした。また、毎時間の学習状況は座席表形式の

評価シートに記述し、前時までの学習状況を基に発展的な学習・補足的な学習の指導につながる評価に活用した。

(4) 検証授業の実施

平成 18 年 12 月 7 日から平成 19 年 1 月 12 日にかけて、武蔵村山市立第一小学校第 6 学年 2 組において、検証授業を実施した。第 6 学年内容(2)アにおける「社会的事象を多面的にとらえ、考える力」を育成するための学習指導計画に基づき、学習シートの記述を基に学習指導計画及び開発した教材の有効性を検証した。

Ⅲ 研究の結果と考察

1 結果

的確な検証のために、学級全員を〈グループ A〉〈グループ B〉の 2 グループを設定して授業観察を行った。

〈グループ A〉社会的事象を多面的にとらえて、考えることが「十分満足できる」・「おおむね満足できる」学習状況の児童として、発展的な学習の指導を行った。

〈グループ B〉社会的事象を多面的にとらえて、考えることに「努力を要する」学習状況の児童とし、補足的な学習の指導を行った。

(1) 調べる学習過程〈グループ A〉の児童の人数：7 名

この 7 名に対して、発展的な学習の指導を行った結果、社会的事象を複数の事例からとらえ、総合的に考えることができたと判断できる児童は 3 名であった。

〈社会的事象を複数の事例からとらえ、総合的に考えることに課題があった児童 C〉

都市計画策定の事例を調べる学習では、「公聴会」「説明会」「都市計画作成の流れ」の複数の事項から「市民の意見を集約している」と社会的事象の意味とらえ、「市は市民の願いを大切に計画を立てている」と考えを記述した。その後、「モノレール延伸計画での市の働きはどうか」との視点をヒントカードで示し、市の働きを複数の事例からとらえ、考えさせる学習に取り組ませた。しかし、「7 km 区間」「魅力的なまちづくり」と記述したが、市の働きに関する考えの記述はなかった。

(2) 深める学習過程〈グループ A〉の児童の人数：24 名

この 24 名に対して、発展的な学習の指導を行った結果、社会的事象をより多くの事項からとらえて、考えることができたと判断できる児童は 17 名であった。

〈社会的事象をより多くの事項からとらえ、考えることができた児童 D〉

都市整備部の立場で土地利用計画を考える学習では、「にぎわいのあるまち」「ふれあいのあるまち」の複数の事項から社会的事象の働きを「市民が楽しめ、多くの人が集まる施設が必要」とらえ、「水族館の建設」と記述した。その後、ヒントカードの例示を参考に「安心・安全なまち」の事項を加えて、より多くの事項から「大型の施設をつくることで、たくさんの人が集まり防犯面で安全」と考え、「大型幼稚園・保育所の施設の建設」と記述した。

(3) 深める学習過程〈グループ B〉の児童の人数：10 名

この 10 名に対して、補足的な学習の指導を行った結果、社会的事象を複数の事項からとらえ、考えることができたと判断できる児童は 7 名であった。

〈社会的事象を複数の事項からとらえ、考えることができた児童 E〉

都市整備部の立場で土地利用計画を考える学習では、「にぎわいのあるまち」の事項から「子供から大人まで楽しめる場所が必要」と考え、「スポーツ施設建設」と記述した。その後、提示したヒントカードや「市の働きや役割は市民の願いを大切にすること」との教師の助言を参考に、「うるおいのあるまち」の事項を加えて考え、「市の働きは自然を壊さないことがある」との理由を加え、数の事項から「自然を生かしたスポーツ施設」と記述した。

2 考察

(1) 発展的な学習の指導について

「調べる学習過程」では、この学習に取り組んだ約4割の児童に手だての効果が見られた。これは、「複数の事例からとらえ、考える学習」の指導が、児童の理解や習熟の程度に応じた段階的な学習の指導とならなかったため、思考を混乱させてしまったと考えられる。

「深める学習過程」では、この学習に取り組んだ約7割の児童に手だての効果が見られた。これは、既習学習の社会的事象の意味や働きを基に、より多くの事項を比較・関連させてとらえ、考えることができ、児童の理解や習熟の程度に応じた学習の指導になったと考えられる。

(2) 補足的な学習の指導について

「深める学習過程」では、この学習に取り組んだ約7割の児童に手だての効果が見られた。これは、「調べる学習過程」と同じ方法を繰り返したことで、学習の手順や方法の習熟を図ることができたと考えられる。

(3) 開発した教材について

ヒントカード

児童34名中26名の児童がヒントカードを参考にして、学習の手順や方法に従って取り組むことが観察できたり、社会的事象の意味について考えたことを記述できたりした。しかし、示した情報量が多く、理解することに課題があった児童もいた。

選択学習シート

児童34名中、「つかむ学習過程」では児童5名であったが、「深める学習過程」では児童20名が学習状況を自己評価して選択することができた。自分の学習状況を自己評価する力が高まったと考えられる。

(4) 座席表形式の評価シートについて

個に応じた指導の充実を図るために観点別の評価シートとしたが、項目が漠然としており、把握した実態から効果的な指導に活用には生かされないことがあった。

IV 今後の課題

1 発展的な学習・補足的な学習の指導

社会的事象を多面的にとらえ、考える力を育成するために「複数の事項からとらえる」「より多くの事項からとらえる」「複数の事例からとらえる」の段階的な指導を、さらに明確にして学習指導計画に位置付け、個の理解や習熟の程度に応じた指導を工夫していく必要がある。

2 開発した教材の工夫

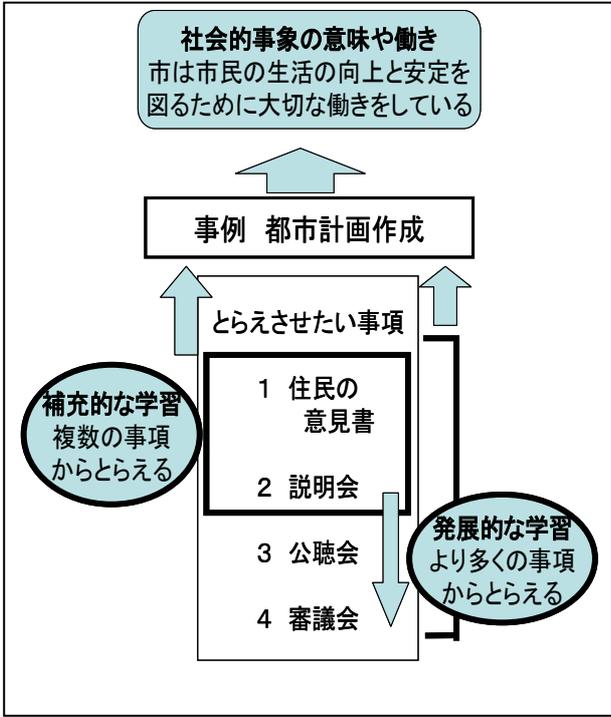
ヒントカードでは、内容や効果的な提示方法を更に検討することが必要である。また、座席表形式の評価シートの活用について、児童の実態を把握するための観点を焦点化するなど、さらに改善を進める必要がある。

I 本研究における「社会的事象を多面的にとらえ、考える力」を育成する

発展的な学習・補充的な学習の指導例

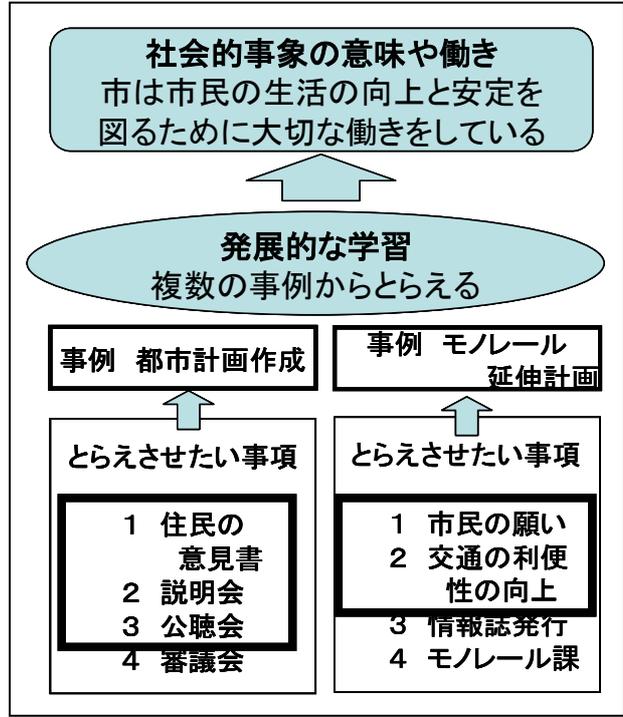
(図1)

「社会的事象の意味や働きを、より多くの事項からとらえ、考える」発展的な学習・補充的な学習の指導



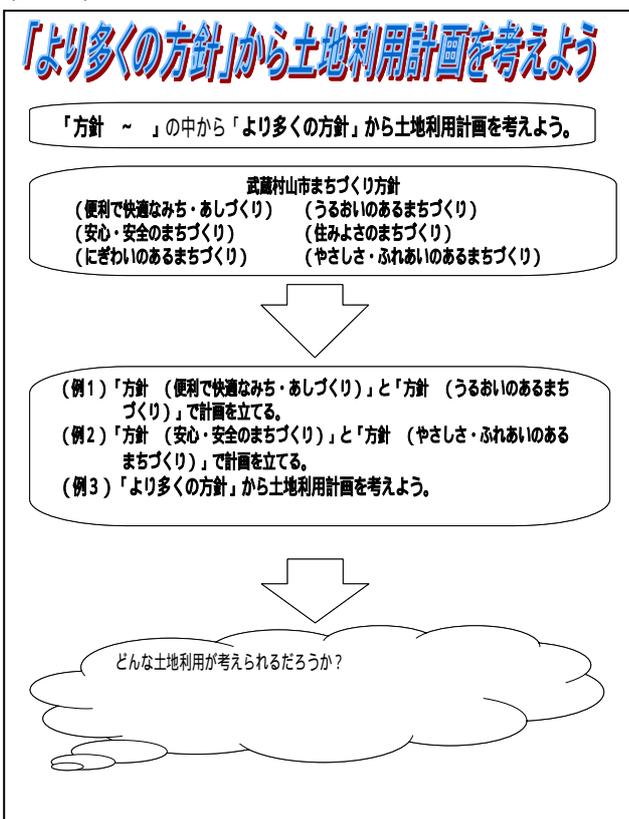
(図2)

「社会的事象の意味や働きを、複数の事例からとらえ、総合的に考える」発展的な学習の指導

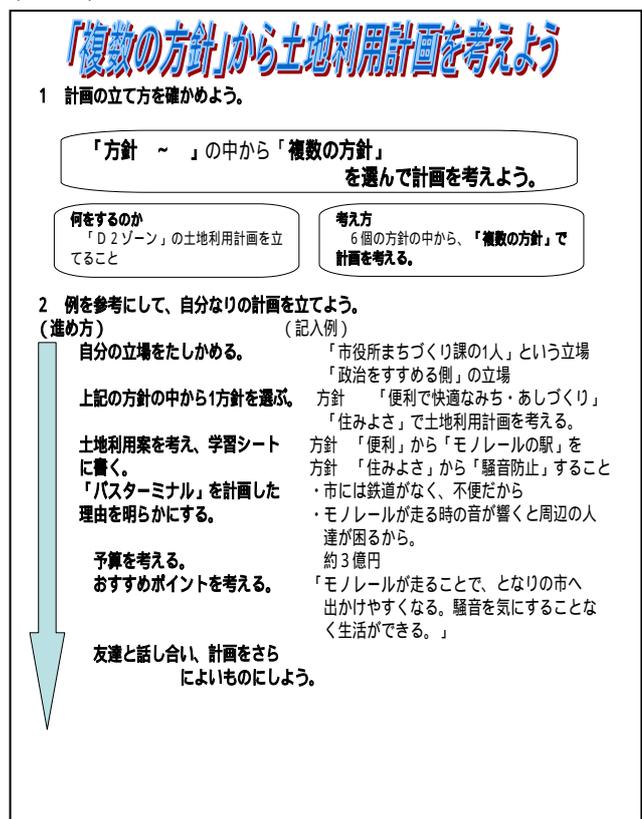


II 発展的な学習・補充的な学習の指導で活用したヒントカード例

(図3) 発展的な学習で活用したヒントカード



(図4) 補充的な学習で活用したヒントカード



「社会的事象を多面的にとらえ、考える力を育成する個に応じた学習指導の工夫 - 発展的な学習・補充的な学習の指導を通して - 」

Ⅲ 座席表形式の評価シート

前単元までの学習状況を観点別で評価し、本単元で伸ばしたい「社会的事象を多面的にとらえ、考える力」を座席表形式で表し、指導の一助として活用した。

座席表形式の評価シートの工夫

(図5)

(31) 関思技知 複数の事例からとらえ、考える力	(25) 関思技知 複数の事例からとらえ、考える力	(19) 関思技知 複数の事例からとらえ、考える力	(13) 関思技知 複数の事例からとらえ、考える力	(7) 関思技知 複数の事例からとらえ、考える力	(3) 関思技知 複数の事例からとらえ、考える力
(30) 関思技知 複数の事例からとらえ、考える力	(24) 関思技知 複数の事例からとらえ、考える力	(18) 関思技知 より多くの事項からとらえ、考える力	(12) 関思技知 複数の事例からとらえ、考える力	(6) 関思技知 複数の事例からとらえ、考える力	(2) 関思技知 複数の事例からとらえ、考える力
(29) 関思技知 複数の事例からとらえ、考える力	(23) 関思技知 より多くの事項からとらえ、考える力	(17) 関思技知 複数の事例からとらえ、考える力	(11) 関思技知 複数の事例からとらえ、考える力	(5) 関思技知 複数の事例からとらえ、考える力	(1) 関思技知 複数の事例からとらえ、考える力

黒板

整理番号

本単元で伸ばしたい多面的にとらえ、考える力

観点別による評価
十分満足できる学習状況
おおむね満足できる学習状況
努力を要する学習状況

Ⅳ 自分の学習進度・学習状況に応じて、選択できる学習シート例

(図6)

調べたことをイメージマップにまとめよう。(第7時)

暮らしと政治を調べてみよう学習シート(6) 6年()組 名前()

①「武蔵村山市都市計画マスタープランの作成から実現」をイメージマップに整理しよう。(「モジュール延伸計画」)

暮らしと政治を調べてみよう学習シート(6) 6年()組 名前()

①「武蔵村山市都市計画マスタープランの作成から実現」をイメージマップに整理しよう。(「モジュール延伸計画」)

都市計画が必要

(市民参加の流れをまとめてみよう)

都市計画の決定・都市計画の実施

調べたことを自分なりに構成しまとめることができる学習シート

まとめ方を例示した学習シート

児童が自分の学習進度・学習状況に応じて選択できるようにした。

武蔵村山市が計画を進めるときに大切にしていること

武蔵村山市が計画を進めるときに大切にしていること